

読む人の幸せを心に願って作る

喜びの タネまき 新聞

No.597

初夏の倉敷美観地区〈岡山県〉

爽やかな風にそよぐ柳並木や、風情ある町並みが広がる倉敷美観地区。江戸時代は徳川幕府直轄の天領として栄えた場所で、現在も倉敷川の畔には白壁の屋敷やなまこ壁の土蔵が軒を連ねており、当時の面影を色濃く残しています。



イラスト：歎崎 花鈴

※イラストはイメージです

フルーツ王国として知られる岡山。これから夏にかけて白桃やビオーネ、マスカット、メロンなどが旬を迎えます。



〈人生のデザイン〉

先日、知人の結婚式に出席しました。式典の内容などは全て新郎新婦が考えたようで、お二人の人間が感じられる心温まるものでした。

「私たち、結婚しまし展。」という大阪らしいユニークな招待状から始まり、披露宴では招待客と同じ高さのソファに座られ、ご出席の方々と気軽に会話ができるように工夫されていました。

お二人ならではの結婚式は、まるでのびのびとデザインを描いているような、自由な感性に溢れていました。

若いお二人が結婚に至るまでには、色々な事があつたと思います。これからは二人で力を合わせて真っ白なキャンバスに「人生のデザイン」を描いていけることでしょう。

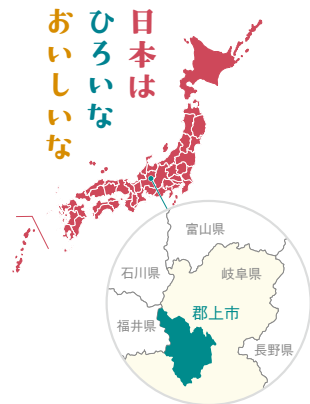
その「人生のデザイン」を描くためには多くの色が必要です。元氣な色や楽しい色の時は気持ちも晴れやかで笑顔になりますが、悲しい色や苦難の色を使わなければならない時もあります。

誰もが笑顔になれる色ばかりを使いたいですが、「人生のデザイン」は全ての色を使わないと描くことができず、その時々合った色を使うことによって、自分らしい「人生のデザイン」となるのかもしれないかもしれません。

私も生活している中で色々な状況と向き合いますが、どのような色であっても大切な一色だと前向きに捉え、自分だけの「人生のデザイン」を描いていきたいものです。

株式会社ダスキン社長

山村輝治



岐阜県郡上市「郡上おどり保存会」 踊り下駄の音が響く 夏の城下町



何度も繰り返し練習を行う子どもたち

日本一期間の長い盆踊り

日本三大民踊のひとつであり、四百年以上の歴史を持つ「郡上おどり」。時の藩主・遠藤慶隆が、領民の融和を図るために各地で行われていた盆踊りを城下に集め、「身分の隔てなく無礼講で踊るがよい」と推奨したのが始まりと伝えられています。そんな背景から、郡上おどりは地元の人のみならず観光客でも、大人でも子どもでも、誰もがひとつの輪になって踊る「参加する踊り」として知られています。

また、郡上おどりは毎年7月中旬から9月初旬まで、31夜にわたって行われる「日本一期」

間の長い盆踊り」としても有名です。特に旧盆の4日間は朝まで踊り明かす「徹夜おどり」が行われ、数万人の人が十重二十重の輪となり、手や下駄を打ち鳴らして踊る圧巻の光景が繰り広げられます。

その輪の中心にある屋形で音頭を取っているのが、「郡上おどり保存会」の方々です。代表曲『かわさき』や、馬のように跳ねて踊る『春駒』など10曲を休むことなく演奏し、大勢の踊りの輪をまとめています。笛・三味線・太鼓に唄と全てが生演奏のため、徹夜おどりとともなれば9時間以上にもおよぶ大変な役割ですが、会長の藤田政光さん

大人顔負けの演奏で 踊り客からも拍手喝采

郡上おどりに情熱を傾けているのは、大人だけではありません。小学生から高校生まで16人が所属する「郡上おどり保存会ジュニアクラブ」では、1年間を通じてみっちり演奏の練習を行っています。保存会のエースである吉村健治さんが先生となつて、楽器の持ち方から姿勢、音の合わせ方まで本格的な練習を重ねているのです。

夏の本番では子どもたちも前座として屋形に上がり、大勢の人を導く音頭を奏でます。その演奏は大人も舌を巻くほどで、唄は子どもらしく伸びやか。演奏後、踊り客から「良かったよ」と声をかけられる様子に、子どもたちを応援してきたお母さんたちも感慨深そうです。

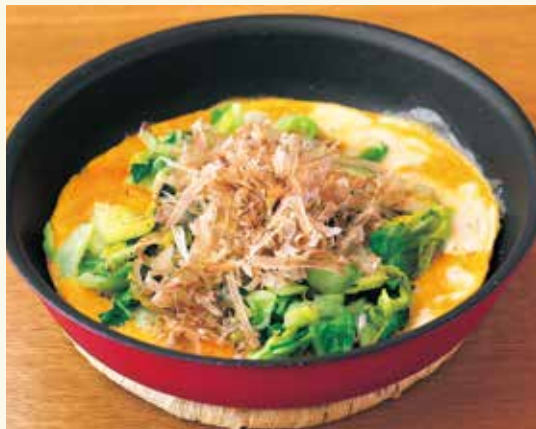
期間中は、毎年遠くから足を運んで来る人や、31夜すべてに参加する人など、多くの人がこの地に集まります。初めて参加する人も、周囲が「こうやって踊るんよ」と教えてくれるので、すぐに輪に馴染んで次第に踊りにも熱が入ります。今も昔も、人々が夢中になる郡上おどり。その魅力の源は、地元の人々の「伝統を守り抜く」という気概と情熱にあるようです。

岐阜県の 郷土料理

漬物ステーキの作り方

材料(4人分)

白菜の浅漬け 260g
卵 2個
花かつお 1つまみ(1~3g)
だし醤油 大さじ1~2
油 大さじ2
七味 適量



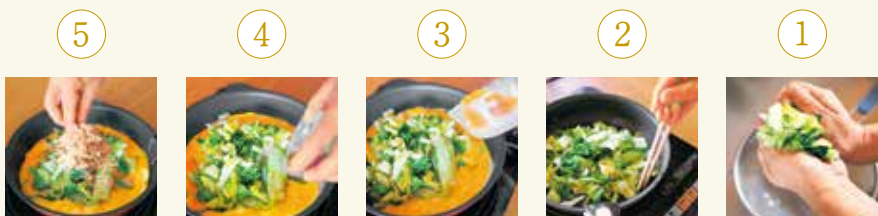
飛騨地方に伝わる、漬物が主役の郷土料理。寒さで凍りついた漬物を溶かすために囲炉裏で焼いたのが始まりなど、発祥には諸説あります。チーズやツナを加えたりと、各家庭でそれぞれ食べ方があるそうです。

作り方を教えてくれた人



飛騨クッキングクラス
田口 陽子さん

海外から訪れた観光客など外国人を対象に、「地元のお母さんの家で郷土料理を学ぶ」教室を開催。得意の英語を生かして、飛騨の食文化を伝えている。



お好みで七味を振り、花かつおを乗せて完成。

溶き卵が固まる前に、だし醤油を全体に回しかける。

炒めた白菜を中央に寄せ、その周囲に溶き卵を回し入れる。

中火で熱したフライパンまたはステーキ鉄板皿に油を引き、白菜全体に火が通るまで2分程炒める。

白菜の漬物をひと口大に刻み、固くしほつて水気を切る。

えがおで暮らせば



夏休みが近づくにつれて、旅行の計画を立てている方もおられるのではないのでしょうか。坂井さんも、大の旅好き。でも、その楽しみ方はちょっと意外なものでした。

第二十五話

旅は自由に大胆に

もうすぐ夏休み

緑が濃くなり、風が運んでくる木々や土の匂いが、夏を予感させるようになりました。夏休みはもう目前。我が家の孫たちは浮き足立って、まだかまだかと指折り数えています。楽しみが待っていると思うと、毎日を二層頑張れる気がしますね。

旅は「成り行き任せ」

長期休暇の楽しみと言えば、私は真つ先に旅行を思い浮かべます。子どもたちが自立して夫と二人だけの生活だった頃は、暇を見つけてはお友達ご夫婦と一緒にあちこちを訪れたものです。

日頃は、朝のうちに夕食の下ごしらえを済ませ、出かける前の5

分だつて無駄にしないよう心がけている私ですが、旅行となると、ほとんど無計画。宿泊先だけ決めて、あとはいつも成り行き任せです。下調べして予定を組んだ方が観光地などを効率よく回れるとは思いますが、私は到着してから地元の方に教えていただくことが多いですね。時には予想もしないことが起こったりしますが、それも全てが思い出になると思っています。

また、その土地ならではの料理をいただくことも、旅の楽しみのひとつです。お漬物ひとつとっても風土によって味が異なりますので、とても面白いですよ。

心を解放することが旅の醍醐味

思い起こせば、私たちが最初にした、成り行き任せの旅は、新婚旅行でした。山梨県の清里高原で式を挙げた後、その足で電車に乗って妙高高原や福井の東尋坊などを回りながら、あてのない旅を楽しみました。それはちよつとした冒険のようで、ワクワクしたことを今でも

鮮明に覚えています。

そう思いますと、私にとって旅行の目的とは、単に見知らぬ土地に赴いて色々なものを見聞きするだけでなく、日常から離れた環境で心を解放することにもあるのかもしれない。無計画で行き当たりばつたりを楽しむことが、一番の旅の醍醐味のような気がします。

日常にも、ちよつと旅気分を

今は屋過ぎには孫たちが学校から帰ってきますし、3世帯分の食事の用意もありますから、なかなか旅行をする機会はありません。ですが、買い物帰りに遠回りをしているものと違う風景を見たり、少し足を止めて日が落ちるまでじつくりと夕焼けを眺めたりしています。日常に追われている自分をちよつぱり解放できて、旅にも似た気分を味わえるのです。

また、昔行つた旅のことを思い返す時間も、かけがえのないひと

とき。旅行のことはずつと記憶に残りますし、折にふれる度に思い出しては心を温めてくれます。旅先で食べた料理を、自宅で再現してみることも多いですね。全く同じというわけにはいきませんが、自分なりにアレンジを加えながら試行錯誤して作るのは楽しいものです。名古屋で食べたひつまぶしをお手本にしたうなぎ料理は、今や我が家の夏の定番となっています。

この夏、ご旅行される方は、どうぞお気をつけて楽しんでいらしてください。ご旅行の予定がない方も、これまでの旅をちよつと思ひ出して、温かいひとときを過ごしてみてください。皆様の夏休みが、素敵なものとなりますよう心よりお祈りしております。



名古屋名物「ひつまぶし」からヒントを得て作るようになった坂井家のうなぎ料理。きゅうりの塩もみと大葉であっさりとした仕上がりに

坂井より子さん

1946年生まれ。神奈川県葉山町在住。主婦歴40年の経験を生かした、やさしい家庭料理の伝授と暮らしの知恵を交えた語りが好評を博し、さまざまな世代の女性から人気を集める。近年、親子教室などで若いお母さんたちの支えとなる活動も行っている。著書に「受け継ぐ暮らし」「暮らしをつむぐ」(技術評論社)。

より子さんのノート

自分へのお土産は日用品

旅先では、お土産選びも楽しみのひとつ。坂井さんは、器や台所用品など日々の生活で使える日用品を買われることが多いそうです。

選ぶ際は、旅の記念だからと思わずに、厳しい目でチェック。納得して選んだものなら毎日のように使用するの、その度に旅先での光景が思い出せるからだとか。ちょっと幸せな気分になれる、真似してみたいアイデアです。



高台から見下ろす相模湾。伊豆半島にゆっくと落ちる夕日を心ゆくまで眺めていると、心が柔らかくなるのだそう

ほほえみのひろば



両替で幸せに

栃木県宇都宮市 辻 小夜子さん

バスが発車してすぐのこと。乗客の若者が、運転手さんに「小銭を持たずに乗車してしまったので、一万円札しかないのですが…」と話しかけていた。しかし、始発を出たばかりで両替機にはまだお札が入っていないそう。困り顔で席に戻る若者に、私はとっさに声をかけた。いつも財布に小銭と千円札を多く入れておくため、その習慣が思わぬところで役立つのだ。

丁寧に頭を下げてバスを降りる若者を見て、私もホッと一安心。そして私が降車する際、運転手さんも「両替をありがとうございました」と温かなお札の言葉をかけてくださった。

ほんの少し人のお役に立てて、感謝の言葉を頂けたその日は、私にとって幸せな一日となった。

とっさの時に役立つ習慣、
見習いたいと思います。



織姫が舞い降りた

神奈川県横浜市 久保 健治さん

昨年7月、天の川から織姫が元気な産声をあげて舞い降りてきた。待望の「初ひ孫」である。

以前の我が家では、朝になると3人の孫がバタバタと大きな音をたてては「おはようー行ってきまーす!」「いつてらっしやい、車に気を付けてね」と賑やかだった。玄関は、乱雑に脱ぎ捨てられたスニーカーでいつも足の踏み場がなかったものだが、いつの頃からかお洒落な革靴が行儀よく並ぶように。その成長を微笑ましく感じたものだ。

孫たちが巣立ち、すっかり静かになった我が家。その寂しさを神様が見かねて、織姫をさし遣わしてくださったのかもしれない。

なんて素敵なお七夜の贈り物。
すすくと元気なお姫様に育ちますように。



「かんで」当ってごらん

長崎県長崎市 塘 玲子さん

私には5歳になる男の子の孫がいます。我が家に来たときは、トランプやかくれんぼ、ブロックを作ったりして一緒に遊んでいます。

先日「当ってごをしよう」となりましたので、私は両手に鉛を隠して、「さあ、どっちの手にあるでしょう?」。どうしても当てたい孫は「ばあば、どっちにあるか教えて」と聞くので、私は「勘で当ててごらん」と答えました。

すると、孫はいきなり私の手をガブリ! なんと「勘で」を「噛んで」と思ったようです。改めて「頭で考えて、当ててごらん」と言つと、きよんとした顔をしていました。

ちよつぷり痛かったけど、楽しい一日でした。

とっても可愛い勘違い!
思わず「元が緩んでしまいました」。

燈々無尽

信頼こそ財産

日本であらうと、アメリカであらうと、
あるいはどこの国であらうとも、
人間が人間らしい、
いとなみをするために、
最も欠かす事が出来ないのが、
人間と人間との信頼です。
「あの人は信用が出来る」と、
言われることが、どんなに大事な事か!

信用は自らが築くものです。
毎日、毎日、誠意をもって。

鈴木清一



ぐみの味

青森県弘前市 宮崎 きみ子さん

孫が生まれた際、記念樹として「ぐみの木」を植えました。

それからはや5年、木はどんどん大きくなり、数えきれないほどの実を実らせました。ぐみの実は食べごろが難しく、渋みが残るものもありますが、赤く色づいた実をもぎとって口に入れると、ほんのりと甘い、懐かしい味がします。

ですが孫は、「やっぱり僕はオレンジぐみの方が好き!」と一言。現代っ子にとって、「ぐみ」は袋に入っているお菓子なのですね。



ぐみの木を見て、ぐみの実の味を知って、
お孫さんにとっては新鮮な学びがいっぱい!



かわいい息子

愛知県半田市 佐藤 里香さん

長女が結婚しました。嬉しい反面、名字が変わってしまったことに寂しさを覚え、主人に話したところ「かわいい息子がふえたってことだよ」と言われました。

その翌月、お婿さんの誕生日プレゼントに、靴下とささやかなお小遣いを包んで贈りました。すると、「靴下、本当に嬉しいです」という言葉と、「お金はもったいなくて使えません。まだそのまま置いてあります」と言われました。

主人が言った通り、本当にかわいい息子ができたと嬉しくなりました。



娘さんは素敵なお嫁さんを選んでくれたですね。
これからもずっと仲良し家族でいてください。



白衣は天職

大阪府吹田市 桂 照子さん

53年前、私は白衣を着て、養護教諭として小学校に勤めていました。当時の保健室は校舎の空き部屋にベッドを入れただけの簡素なもので、私は「赤チン先生」と呼ばれていたものです。

その後、結婚して主婦となり、白衣を着ることはなくなりました。

ところが70歳になった時、息子が鍼灸院を開くことになり、私は受付として再び白衣を着ることに。53年前も、今も、相手の健康のことを気にかける日々。これが私の天職なのかもしれません。



赤チン先生の復活ですね!
きつとまた多くの人から頼りにされますよ。

ラブレター大募集!

遠くに住むあの人へ、
もう会えなくなったあの人へ...
「ありがと」や「大好きだよ」の気持ちを、
「喜びのタネまき新聞」紙面上で届けませんか?
あなたのラブレターをお待ちしています!

愛の輪かぎの「リン」
障がいのある人へ、
まず知ることから、
はじめませんか?



愛の輪は日本とアジアの地域社会の
リーダーを目指す障がいのある若者に、
海外での研修活動を行っています。

手話のこころ

手の動きや表情で「コミュニケーション」を取る手話は、話し言葉と同じように国や地域によつて表現の仕方が異なります。例えば「食べる」という手話は、日本では人差し指と中指をお箸に見立てて「口」に運びますが、アメリカではパンを食べるようにすばめた右手を口に近いなど、その国の文化に基づいているのです。国や相手を問わず、「コミュニケーション」をとる際は、相手のことを理解しようという気持ち大切にしたいですね。

このコーナーについてはダスキン愛の輪基金まで。
☎06-6821-5270 <http://www.ainowa.jp/>



あなたのお便りや写真をお寄せください。

皆さまからお送りいただいたお話をもとに新聞を作っています。どうぞ、あなたが体験したうれしかったこと、誰かに聞いてもらいたいことなど、身近な話題をお寄せください。

送り先

〒564-0051 大阪府吹田市豊津町1-33
株式会社ダスキン広報部
ダスキン「喜びのタネまき新聞」編集室
e-mail: koho4@mail.duskin.co.jp

投稿には、名前、年齢、職業、住所、電話番号、現在ご利用のダスキンの店名をお忘れなく。

- 紙面やホームページでご紹介させていただいた原稿や写真にはお礼品をお送り致します。
- お送りいただいた作品は、必ずご紹介できるとは限りません。また、作品のご返却は致しかねますのであらかじめご了承ください。

**No.420からのバックナンバーが
下記のアドレスからご覧になれます。**

<https://www.duskin.co.jp/tanemaki/>



広島県三原市
大原 信さん



熊本県
天草市
松盛 ヤス子さん



兵庫県たつの市
三輪 理恵さん



お得な情報満載！
LINE@は
もう登録しましたか？

毎日をちょっと楽しくする
情報をお届けします！
ぜひ友だち追加
してみてください！

**LINE紹介
ページへ
アクセス!!**



みてもらおう!

読者の皆さまから
お送りいただいた素敵な1枚をご紹介します。



茨城県神栖市
堀口 容子さん

シャボン玉に
夢中～



東京都
羽村市
仙石 啓子さん



福島県
西白河郡
堀江 留美さん

この新聞をお届けしているのは

株式会社 **ダスキン**

発行・編集：広報部 〒564-0051 大阪府吹田市豊津町1-33

【お客様の個人情報のお取り扱いについて】
お客様の個人情報は商品のお届けや回収、サービスの提供に利用させていただきます。また、後日商品やサービスのご案内をさせていただく場合があります。なお、お預かりした個人情報はダスキングループと加盟店の範囲内で利用させていただきます。配送業務等で個人情報を外部企業に委託する場合は、弊社の厳正な管理の下で実施します。個人情報に関するお問い合わせや、ご自身の個人情報の開示・訂正・利用停止については、下記ダスキンコンタクトセンターまでご連絡ください。

■ダスキンコンタクトセンター

0120-100100 www.duskin.co.jp